



三次中央会報

ロータリークラブ

2018-2019 ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2710

事務所/広島県三次市十日市東 1-16-19
TEL (0824) 64-1245
FAX (0824) 64-1245
E-mail m-c-rc@vega.ocn.ne.jp
http://mrcr.server-shared.com

例会場/広島県三次市十日市南 1-5-5
グランラッセ三次2F

例会日/月曜日 12:30~13:30

会長/角谷俊典

幹事/栗本清秀

●2018~19年度 国際ロータリーのテーマ



インスピレーションになる

●2018~2019年度 三次中央RCスローガン

広げよう ロータリーの心
増やそう ロータリーの友

■本日のプログラム ゲスト講演/プログラム委員会

みよし観光まちづくり機構

専務理事 永江博之様

■次回例会日時 2019年3月11日(月) 12:30~

■次回プログラム PETS報告

■第1252回例会記録

●日時.....2019年2月25日(月)12:30~

●点鐘.....会長

●国歌「君が代」斉唱.....全員

●ロータリーソング「我らの生業」.....全員

●ビジター紹介

庄原RC/垣内秀孝会員(畜産)

庄原RC/舩元真人会員(ベッド製造業)

三次RC/中川筆之会員(税理士)

■開会挨拶.....角谷会長

人手不足は深刻な問題

みなさん、こんにちは。三次ロータリークラブの中川さん、庄原ロータリークラブの垣内さん、舩元さんようこそおいでくださいました。ごゆっくりお過ごし下さいませ。

先週、きんさい祭振興会主催の役員会に出席いたしました。今年のきんさい祭は7月27日土曜日に開催されることとなりました。「しあわせを実感しながら住み続けたいまち」「誇れるまち」を基本に、暑い暑い三次の夏を感動がはじける祭にしますと宣言されました。当クラブもこの祭ではじめてみますか!

私の職業分類はコンビニエンスストアですが、このところテレビや新聞でクローズアップされております。セブンイレブン本部と大阪市の加盟店のオーナーの間で24時間営業を巡る対立が話題になっております。

皆様も少なからずお聞きのことと思いますが、この店のオーナーさんが人手不足により過重労働が肉体的精神的に限界を感じ、店舗の営業時間を19時間に短縮しました。この件に関し、本部側がフランチャイズ契約に違反する状態になると指摘したこと

でオーナーが反発する事態となったわけです。本部から、違約金1,700万円、さらに違反した状態が続けば契約解除の理由になり得ると告げられました。

24時間営業では、シフトが従業員で埋まらないときはオーナーがフォローに入っているのが実情です。人手不足で従業員が確保できなければ延々とオーナーがフォローに入るわけです。コンビニに限らず、24時間フル稼働の工場においてもやはり人手不足は企業の根幹を揺るがす大きな問題です。

商工会議所の業況調査でも人手不足は企業の抱える問題点の重要事項にも上がっています。少子化傾向でさらに追い討ちをかけられ、この先どうなるのか大変不安を感じております。皆様はいかがお感じでしょうか。



■幹事報告.....栗本幹事

- 本日例会終了後、臨時理事役員会をロビーにおいて開催します。

■出席報告.....水野委員長

- 第1250回 2月4日

会員数	41名	Make-up	2名
欠席	6名	出席合計	38名
欠席者のうち欠席者	2名	出席率	97.44%

- 第1251回 本日の出席は41名中38名です。
- Make-up...小田君、酒井君

■SAA.....大井SAA

- 会員誕生日...町里君、松本君



●ビジターニコニコBOXご出宝

ニコニコBOX本日出宝額 16,500円



熱気球 我が家の前に

寄稿：安藤 仁会員

2019年2月24日(日) 8時15分

巴橋近くの 馬洗川堤防内側の散歩道にふわりと舞い降りた熱気球。

「どこからですか？」

「佐賀からです」

「来年も来てくださいね」

上手に着地。仲間のワゴン車がお迎えにすぐやってきました。

しばらくは近所の子どもたちと乗船会をされていました。

新しい三次の冬のイベントになったらよいと思いました。

三次観光協会さんも 張り切ってください。

ほとんどの皆さんは、スマホでFB（フェイスブック）をやっておられると思います。その中にFBロータリアン交流会というのがありまして、暇な時に見る事があるのですが、PGであります諏訪昭登さんがポールハリスの事を載せておられたので少し紹介してみます。諏訪昭登さんといえば、2008～2009年度杉谷会長のときのガバナーです。

1935年2月9日ロータリーの創始者P.ハリスは、ジーン夫人とともに来日しています。当時ロータリー親善大使として諸外国を訪れ、26か国に「友愛の木」を植樹しました。日本では帝国ホテルの庭に友愛の木、月桂樹を植えています。1967年ホテル改築に際して移設計画をしたところ、虫害等で枯死寸前だった事が分かりました。東京ロータリークラブの矢野一郎氏（第一生命会長）の尽力で挿し木した結果、7本の二世樹が生育しました。第一生命本社内で保育されていた中で東京ロータリークラブ60周年（1980年）に一本は帝国ホテルの庭に、一本を宮城の北の丸公園に移植されました。同年一本を小田原市の二宮尊徳記念館に、一本を米山記念館に移植されました。あとの3本中1本は枯れてしまい、残り2本が大井町の本社内でも大切に維持保育されているそうです。因みに諏訪PGの所属する広島西ロータリークラブは、ポールハリス没後50周年記念として米山記念館で三世樹を譲ってもらって1997年に例会場である広島ANAホテル前庭に植樹しているそうです。

記念樹と言えば、全国各地を天皇家の宮様が訪れた記念に記念樹が植えられますが、尾道の因島だったと思いますが、大手の造船所の正門のところにあるホテルの入り口付近に紀宮殿下お成り記念と書いてあるすぐ後ろに、根元からぼっそり切られた切り株が残っていたのを思い出します。そうなる前に何とかならなかったのか。

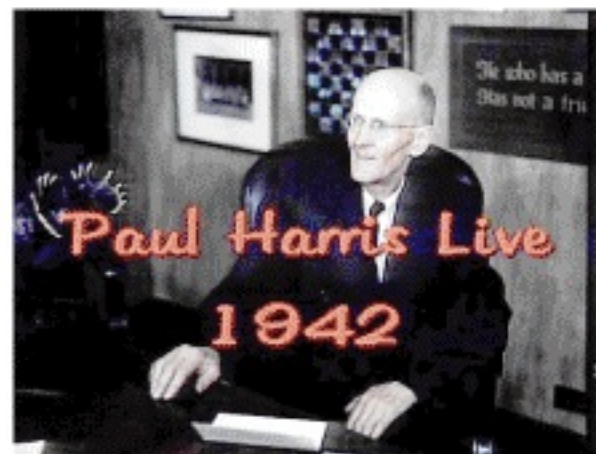
それではDVDをご覧ください。



DVD 1本目「ロータリーの歴史」

1905年2月23日、ポールハリスとその友人がシカゴの事務所で会合を開いた時からロータリーの親睦が生まれました。ロータリーが世界の国々に広がり何万というクラブを持つ連合体に成長しようとは、その夜には想像もなかったことでしょう。

ロータリーの奉仕への取り組みは、1907年にシカゴに公衆トイレを設置した時に始まりました。このプロジェクトをもってシカゴロータリークラブは世界初の奉仕クラブ団体となったのです。



DVD 2本目「ポール・ハリス ライブ」

ロータリーの創始者であり国際ロータリーの名譽会長であるポール・ハリスは、無欲で慈悲に溢れた人、生涯人のために尽くし、奉仕するためにその一生を貫いた人である、といわれています。

ポールハリスはロータリーについて次のように述べています。「ロータリーは発展した。それはロータリーでは人の地位はその人の主義主張ではなく、その人の行動に基づき、その真意はもっとも輝かしく人類が最も渴望している全人類の兄弟愛の実現を目指すものだからである。」

昨年秋も終わりの頃の例会でのことです。「和田さん、『きさくさん』って知ってる？」そう私に言ったのは、同じテーブルになった沈会員。

「『きさくさん？』聞いた事無いけど……それがどうしたの？」 「常会に毎年、祭祀の費用を集めている、小さなお社があって、その中の何体かの神様のうち、『きさくさん』っていう『神様』が何の神様か分からない……和田さん知ってるかなと思って……」 「それは、たぶん、神様の略称ではないの？なんかの神様のニックネームよ」実にいいかげんなことを言いました。その後ネットで調べても、数社の知り合いの神社に尋ねても「???」ほぼ諦めていたところ、沈会員が渡してくれた祭祀費用の集金名簿に「検原」という地名を発見！そこで検原に住んでいる息子の同級生の原田さんに尋ねたところ、意外や意外、若い彼が知っていたのです！ 以下は彼が寄稿してくれた、かつて喜作池のそばにあった祠の写真と池にまつわる話です。

【「喜作さん」の言い伝え】

その① 昔、檜原の百姓家に子守として奉公にきていた「きさく」という娘がいた。ある日その娘が、池に身を投げ亡くなってしまった。(理由は不明) その娘を哀れに想い、祠を建て供養した。(76歳の父が祖父より聞いた話)

その② 昔、「きく」と「さく」という2人の娘がおり、池で遊んでいるうちに誤って池に落ちてしまい、溺れて亡くなった。その2人を供養するために祠を建てた。(近所のTさんより聞いた話)

【喜作さん(喜作神社)について】

三次市三次町檜原にある祠。(いつ頃からあるものかは不明)

現在は、同地区の黄幡神社のそばに移設されているが、元々は、同地区にあった「喜作池(20×25mくらいの池)」のほとりの大岩の上に祠はあった。

「喜作池」は、田畑よりやや低い土地にあったため、「ため池」としての池ではなかったようで、西城川からの湧き水や水路の覆水が溜まってできた池だったようだ。昭和30年代頃までは、魚釣りをしたりシジミなどを採ったりと子供たちの遊び場だった。魚は、フナやハエなどがおり、ご飯に糠を混ぜた練り餌などを使って釣りをしていた。フナは、この池特有(?)のものもあり、鱗が無く、色も薄紫で少し身体が透けたような、他では見たことが無いものがいた。また、シジミも他よりも大きなものがいた。

その後、昭和47年(1972年)7月の水害により「喜作池」は浸水し、池は流され、大岩とともに土砂で埋まったが、奇跡的に祠は、そのすぐそばで流されず見つかった。水害後の圃場整備により池のあった場所は水田になり、祠は池があった近くの水田の一面に設置されていたが、現在は少し離れた黄幡神社のそばに移設されている。(76歳の父と近所のTさんに聞いた話)

その後、原田さんが『きさくさん』を祀ってくれている大歳神社さんにも訊いてくれましたが、由来についてははっきりしたことは分からなかったそうです。悲しい言い伝えのある池、私たちの先祖はその悲劇を神にして祀るという事で、心を鎮めて来た民族なのかも知れません。昭和47年の豪雨で消えてしまったこの池ですが、原田さんはこれをきっかけに、次の世代に語り続けて行きたいとおっしゃっていました。

また、池についての地学的考察も興味深く、地質学に詳しい卯山善章先生にお話ししたら色々教えていただきました。NHKのEテレのテーマではありませんが、知らないってワクワク!知るとなお、ワクワク!!です。

